

## 21世紀の日本のかたち（49）

### － 文明の転換期 －



戸沼幸市  
＜(財)日本開発構想研究所 理事長＞

#### 1. 脱原発

3.11東日本大震災から10ヶ月が過ぎました。今年、東北の友人からの年賀状には辛抱強く復旧、復興に立ち向かっている様子が熱く伝わってきます。

今度の東北の大震災で最も気に掛かっているのは、いまだ目処が立たない福島の原子力発電所の事故、惨状です。

昨年暮れ（12月16日）、野田首相は福島原子力発電所の冷温停止状態が確認されたとし、「事故そのものは収束」と発表しました。

しかし、原発建屋内の様相を含め、原発事故による広範囲な放射能汚染の実態は必ずしも明らかではなく、深刻さは増しているとする感じられます。警戒、危険地域から離れて仮住まいを余儀なくされている人々、住んでいた土地に再び戻ることを諦めた人々も大勢いると報じられています。

原発事故による放射能汚染は、子供や若い母親、世代を貫いての悪影響が心配されます。大地―農地、農作物、そして川、湖、海、魚類にも放射能汚染が広がって深刻です。事故による放射性物質の飛散は、福島県を越え周辺県、関東圏にも及んでいます。飛散した放射性セシウム137の半減期は約30年とされています。福島原発の廃炉には数十年を要すると

のことです。

今年、2012年1月6日、細野原発担当相は、政府として「原則40年で廃炉」と原発の寿命法制化への取組みを表明しました。これが実施されると、震災前にあった54基の原発が、2020年末までに18基、さらに2030年末には18基が廃炉となります。このことは日本の戦後エネルギー政策の大転換を意味します。

石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料による発電にはCO<sub>2</sub>、地球温暖化の問題がつきまといっています。太陽光や風力、水力などの発電、自然エネルギーの研究、開発が急がれます。併せて、省エネ社会の実現が迫られます。

劇的な人口減少、少子超高齢化社会における日本人の生活の在り方がこれに重なります。

3.11は明治以来の科学技術の上に築いた文明社会の反曲点であると実感されます。

#### 2. 21世紀、どのような日本文明を画くか

1970年頃、明治維新から100年（1968）が経っていましたが、これまで日本が築いてきた近現代文明社会とはどのようなものか、21世紀はこの延長線で大丈夫かについて、早稲田大学で文系、理工系教師など100人ほどが集まってひと議論した記録、早稲田大学21世紀の研究会レポートが手許に残っております。

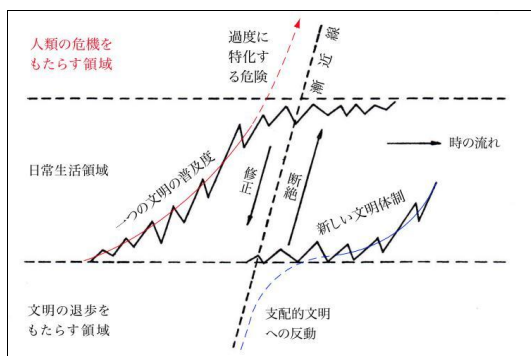
以下に、この中から一部を記してみます。

「アダムとエバがリンゴの実を食べて以来、人類は自然の成り行きに反抗した形で、プロメテウスの火を育ててきたといえる。そこには、はじめからの矛盾を孕んだ生活をする宿命が負わされている。その矛盾はいつか人類の命とりとなる時がくるだろうが、今日まで人類は知恵を働かせて、その矛盾を顕在化しないように手を打ってきた。

一つの体制によって獲得した人類の自由が加速度的に増加して、矛盾を露呈しない前にあるいは反動的にブレーキをかけたり、反対提案によって乗り越えたりしてきたのだった。無限に発展しそうになる前に、その漸近線からの接近をして来たといえよう。だが難しいのは、今日がそのどの段階を進みつつあるのかの認識、判定である。

まだまだ今の傾向は発展させてよいものとみて、その洗練を採すのか、もはや危機的領域に陥りつつあるから、これ以上加速を加えてはいけないと判断し、その矛盾を癒す新しい世界の傾向を提案すべきであるとするのか」  
(吉阪隆正) 参考1

図1 文明の反曲点



資料:「アニマルから人間へ 二十一世紀の日本・上」早稲田大学二十一世紀グループ著、紀伊國屋書店、1972.5

「現代文明の特長が科学技術の発展に起因するということについては、異論はないと思う。そして人類の生活の可能性はこれによって著しく増大した反面、危険もまた著しく増大したということも明らかなどころである。・・・

科学技術文明は結論的というなら、人類の自ら生みだした所産だが、人間はすでにそれを制御しきれない状態になっているということである。

科学技術文明に未来があるとすれば、どこかで、制御機能を増強し、いまよりはるかに統御された社会を設計するほかはない。・・・

すべての価値の基本は人類のためという点から発想しなければならないが、実は地球は人類だけのものではない。自然史的に見れば、大自然という巨大システムの中の一現象として人類の参加を考えざるを得ない。

こうして「人類のために」という美名は時によって人類のエゴイズムになる場合もおこる。人類の自然破壊が加速度的に進行しつつある現代では、当座の人類エゴイズムはやがて人類の不幸として突き返されるおそれが発生した。・・・

農業化社会、工業化社会、脱工業化社会、情報化社会などとさまざまな社会形態が提案されるのは、そのときどきの技術の進歩を反映しての発想であるが、現代、最も大切なものとなってきたのは、社会の形態の必然的な流れではなく、いかんにして形態を破滅させずに持続させるかということになってきた。・・・

再び農業化社会にかえるのもいいと思う。ただしその時には工業化の利点や情報技術を適宜に生かした統合設計をすることになる。・・・

人類がエゴイズムを捨てて、大自然をふくめ地上のトータル・システムの最適コントロールを使命とする日が来たように思う。」(高木純一) 参考1

「1945年7月16日、アメリカのニューメキシコ州アラモゴルドの砂漠で、世界最初の原子爆弾がさく裂し、広島、長崎に落下され、第二次世界大戦に終止符が打たれた。

その後、原子力は平和への利用のため開発が行われ、先進国アメリカでは原子力発電が一般化し、巨大な発電所の建設がつぎつぎに行われている。・・・

原子力発電所による公害には、原子炉から定期的に取り出される核燃料の燃えかすや、冷却水の浄化に使ったイオン交換樹脂など強い放射能を帯びた残滓による汚染がある。・・・現在、ニューヨーク周辺で、川や海岸沿いの原子力発電所建設計画が住民からの反対によってつぶされている状態である。

21世紀の日本では、原子力発電所の建設とそのおおよぼす公害は極めて深刻な問題になるであろう。」(塩沢清茂) 参考1

「現在(1970)、国土が抱えている諸問題は、21世紀までの30年間に順を追ってスムーズに解決されるのだというよりは、問題が急速に収斂してきて、一つの転換点を作りだし、それをバネにして解決のめどをえるものだと思う。逆にいうならば、現在の傾向のたんなる延長に解決があるのではなく、かなり意志的な設定、価値の転換をとまなうことなしには解決しない問題であるともいえる。その意味からすれば、ここで私たちの描いたもの「21世紀の日本の設計」は、極端にいうならば現

在の動向の否定といってもよい。価値観の大転換の必要を唱えるためのきっかけを絵にしたものといえる。国土計画の主要課題を整理しながら、提案という形で21世紀の国土像をエスキースしてみると次のようになる。

#### ①2つの基礎的な元-人口と面積の扱い

- ・人間が小さくなること、国土を広げること

#### ②日本をとりまく外的条件への姿勢-平和の希求

- ・環日本海ループと環太平洋ベルトの提案

#### ③国土システムの革新

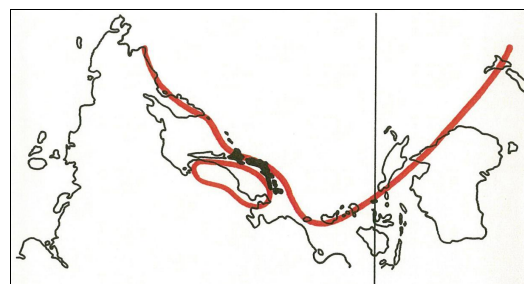
- ・人工と自然の平衡を
- ・ピラミッドから網の目へ

#### ④人心の一新

- ・新首都北上京(東北)の建設

(戸沼幸市他) 参考2

図2 日本海ループと環太平洋ベルト



資料:「日本の未来設計II ピラミッドからあみの目へ21世紀の日本列島像」(早稲田大学「21世紀の日本」研究会) 1970年10月31日

### 3. 2012年春

今から40年程前、大学人にとって1970年前後は大学紛争の最中で、故高木純一先生は早大総長代行、故吉阪隆正先生は早大理工学部長であり、学園紛争の対応に追われておりました。

戦後の高度経済成長と裏腹に、公害問題、環境問題が噴出しており、太平洋メガロポリ

ス、東京一極集中の危険も強く感じられた時期でした。

これらの問題に対して、大学人は教育面でも思想面でも答えていないのではないか、「価値」とは何かについて答えていないのではないかというのが、当時の学生たちの異議申し立て、言い分でした。

確かに、この時期の大学はタコツボ型で閉塞状況にあり、学問も総合的な視点を欠いたコマ切れの知識の断片の切り売り、欧米偏重の観がありました。

1970年は日本の人口問題にとっても、出生率が2.0を切り、節目の年でした。

さて、3.11の大災害を受け取った今年2012年は、日本は新たな課題を突きつけられています。

「市場」というグローバルに動く怪物の国家の喰いつぶし、日本の劇的少子高齢化社会での国家財政の破綻、昨年東北大震災に続いて近未来に予想される大自然災害、東京直下型地震、東海・東南海・南海地震に対する備えをどうするか。

これまでの太平洋側に片寄った日本人の居住を、どこにどの様に住むかという視点からの見直し、そしてエネルギー、原発問題への対応があります。

人間が地球に住むとはどういうことか、日本列島に築くべき21世紀の人間居住とはどういうことなのか、「自然との共存」というよりは「大自然の内を生きる」ことの意味を改めて問い直す年にちがいません。生態圏に入り込んだ異物、原子力発電所は廃棄すべきものと考えます。

2012年春、東北は3.11を逆ばねに柔軟で力

強い生命の網の目社会を再生してほしいと願います。そして、東北の再生を包んで、日本がこの文明の転換期、思慮深い国になってほしいと願います。

#### 【参考】

1. 「アニマルから人間へ 二十一世紀の日本・上」早稲田大学二十一世紀グループ著、紀伊國屋書店、1972. 5
2. 「ピラミッドから網の目へ 二十一世紀の日本・下」早稲田大学二十一世紀グループ著、紀伊國屋書店、1972. 6

(2012. 01. 15)